

授業科目(ナンバリング)	比較文化論 (AC122)			担当教員	滝 知則		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	1年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
この授業ではまず、複数の文化を比較することを通じ、文化がいかにその当事者たちにとっては「あたりまえ」のことであり、他者には分かりづらい細かなところにも文化があるか、を実感することをめざす。こうした実感を通じ、仮に自分が重要性を感じにくいことでも、その文化を有する人たちにとっては彼女ら・彼ら自身の存否にもかかわるほど大切な場合のあることを理解する。 このようにして文化の大切さを感じることを通じ、お互いを尊重しながら、異文化を持つ人たちと暮らしたり働いたりできる人になることが、この授業のねらいである。							⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	(1) ある文化要素について調査し、その歴史的・経済的・政治的背景を説明できる。(2) ある文化要素が、その文化を共有する人たちにとって、どのような意味を持っているかを説明できる。				予習・復習 定期試験	10% 30%	
協働・課題解決力	グループワークとプレゼンテーションに積極的に参加し、制作と発表に貢献できる。				グループワーク プレゼンテーション	15% 10%	
多様性理解力	自分の文化要素と他者の文化要素の異同を指摘できる。				予習・復習 定期試験	5% 30%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験(60%)ではまず、文化の定義、文化が人間の認識に与える影響についての理解を問う。また、自他の文化を比較して、違うところと似ているところは何か、その背景にどのような事情があるか、を説明することを求める。予習はテキストないし配布資料を読み、キーワードを把握しておくこと。復習は指示されたまとめ問題を解く、ないしは調査を行うこと(10%)。翌週授業冒頭でフィードバックする。グループワーク(15%)とプレゼンテーション(15%)では、グループの他のメンバーと共に課題に取り組み、結果を報告できるかどうかを評価する。フィードバックは提出ないし実施の翌週に行う。							
授業の概要							
この授業は3部構成とする。第1部では「文化」の定義(第2回)と、ことばと文化の関係(第3回)を学ぶ。第2部では、文化交流に人間の移動が関係すること(第4回～第5回)、経済も「文化」であること(第6回～8回)を学ぶほか、日本とイギリスの文化の比較を行う(第9回～第12回)。これらの学習を踏まえた応用として第3部(第13回～第14回)では、自分たちが選んだ文化要素を他者のものと比較し、それぞれの特徴を報告する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：使用しない。プリントを配布する。 参考書：綾部恒雄・桑山敬己(2006)よくわかる文化人類学。ミネルヴァ書房。 指定図書：小菅桂子(2013)カレーライス誕生。講談社学術文庫。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. 文化を学ぶことは、興味深く、かつ奥深い。単なる興味本位のお話に終わらず、自分が出会った文化要素について掘り下げることを通じて、自分自身を豊かにしてほしい。そのためにも、予習・復習を継続して行うこと。 2. 授業中の私語は、社会人としてのコミュニケーション能力の不足を示すほか、周囲の他の学生の迷惑にもなるので、厳に慎むこと。正当な理由のない遅刻、欠席、途中退室は認めない。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	この授業のねらい、テーマとスケジュールを確認する。 グループワークについて。	(予習) シラバスを読んでおく。(復習) 自分が興味を持つテーマの特定。
2	人類の歴史と文化	①人類の文化はどのように形成されてきたか ②文化をどう定義できるか	(予習) 参考書第I部(復習) 異なる文化の定義についての感想
3	ことばと文化	ことばと文化はどのように関係しているか	(予習) 参考書第III部(復習) 授業中にとりあげた内容の類似例を探す
4	人種、民族とエスニシティ(1)	①グループワーク(その1) 準備 ②「人種」と民族の違い	(予習) 参考書第IX部(復習) ボルトはなぜ速いか
5	人種、民族とエスニシティ(2)	①民族とエスニシティの違い ②グループワーク(その1) 提出	(予習) 参考書第X部、16部(復習) 民族とエスニシティの違いの事例
6	文化と経済(1)	①産業構造の変化と文化 ②グループワーク(その2) 準備	(予習) 参考書第IV部(復習) 農業に関わる文化
7	文化と経済(2)	互酬性と市場交換	(予習) 参考書第V部(復習) 自分が経験した互酬性の事例
8	文化と経済(3)	①互酬性と市場交換の違いを示す最近の事例 ②グループワーク(その2) 提出	(予習) 配布資料を読む(復習) 今日学修した事例についての感想
9	日本とイギリス(1)	①カレーライスほどの国の食事か(その1) ②グループワーク(その3) 準備	(予習) 配布資料を読む(復習) 指示された調査、今日の授業内容への感想
10	日本とイギリス(2)	カレーライスほどの国の食事か(その2)	(予習) 配布資料を読む(復習) 今日の授業内容への感想
11	日本とイギリス(3)	イギリスと日本のチョコレート(その1)	(予習) 配布資料を読む(復習) 指示された調査、今日の授業内容への感想
12	日本とイギリス(4)	①イギリスと日本のチョコレート(その2) ②グループワーク(その3) 提出	(予習) 配布資料を読む(復習) 今日の授業内容への感想
13	プレゼンテーション(1)	日本とイギリスの文化要素を一つ取り上げ、調査・報告する。	(予習) プレゼン準備(復習) 報告された内容のまとめ
14	プレゼンテーション(2)	グループ内の留学生の国と日本の文化要素を一つ取り上げ、調査・報告する。	(予習) プレゼン準備(復習) 報告内容のまとめ
15	全体のまとめ	この授業で学んだことをふりかえる。	(予習) 第1回～14回のプリントを見直しておく